帰国子女・バイリンガル教育（英語補習校）プログラム
― 第６期秋季講座（中学生および高校生クラス）の内容紹介（２）―

ABCD 学院　学院長　千葉紘一

日本で最初の帰国子女のための英語補習校であるABCD学院での教育について報告します。
前回に続き、中学生・高校生対象の実際に行われた帰国子女プログラムを具体的に紹介します。

３．２ 中・高生クラスの構成およびシステム（続き）

以上のように、この最終回のテーマ選びは、共通テーマに関連した個人テーマを講師が生徒の力量を考慮して決めます。これは生徒のスパンを広げることと、各自のプレゼンテーション後、それぞれのテーマおよび共通テーマについて、全員でディスカッションを行うためです。

お蔭様で、現在の生徒は中間プレゼン、最終プレゼン共に大分慣れてきており、堂々と、又風格さえ感じました。最終プレゼンでは、マンネリを避けるため、また、自分が行ったプレゼンがどの様に思われているか（評価されているか）を知っていただくため、講師による評価制度を設け、実施しています。この評価表は報告書に添付し、生徒の向上の目安として、またモチベーション向上へ役立たせています。プレゼンは人に理解してもらうことが重要となるため、また、生徒のモチベーション維持向上のため、今後共、この制度は続けて行きたいと思っています。（表－２参照）

また、クリティカルシンキングについては、プレゼン後のQ&Aやディスカッションが重要となります。回を追う毎に、プレゼン後に行われるディスカッションに多くの時間を取り、こちらへ重心を移していけたと思っています。今季、ディスカッションにも活発に参加する姿が目立ちました。質問内容には不十分な所もありますが、質問するにはある程度理解が無いと出来ないものです、また勇気も要ります。従って、何回質問したかも今後カウントすべきかとも思います。なぜなら、海外の大学では授業で質問したり、ディスカッションして、授業に貢献することが求められます。成績もこれで評価されます。日本の留学生が授業に貢献できないため評判がすこぶる悪いのはこのためです。このクラスの生徒が外国へ留学するか否かは別にして国際的に通じる人に成功して欲しいと願うからです。

今回取り上げた「地球および宇宙」の問題は広範囲で且つ重要です。地球が如何に特異な存在で、大切であるか理解されたことと思います。また、宇宙ステーション等の宇宙開発は皆さんにはあまり身近に感じているとは言えませんが、これらの設備を使って、オゾン層の破壊、環境破壊や温暖化現象など、今日の地球規模の問題をこれら設備で観測してきた結果わかってきたと言えます。もっと言えば、地球が丸いことを目に見える形で示してくれたとも言えるでしょう。この結果、ローマ教皇がガリレオの時代の問題を、実に数年前、「地球が丸いこと」を認め、謝罪したことを思い出します。

最終回では生徒と講師を含め、午前の部では合計で25名、午後の部では約10名のお客様をお迎えしたこととなります。繰り返しますが、その前で実施したことは、生徒にとって大いなる励みと自信になったことと思います。

３．３ 中・高校生クラスの講座内容と特徴

以下に、本講座の特色を中心に、今学期実施した内容をチェックリスト風に述べさせていただきます。ただし、講師により、授業の進め方について若干の変更がありますのでご了承下さい。

＊ カリキュラムの特徴

（１）中身のある教材を使用して、単なる英会話でなく、内容のある授業を行うこととしています。
（２）自分の考えや意見を述べる機会が多いので、日本の学校では学べない自己表現力が鍛えられます。
（３）帰国子女の多くが苦手な文法なども、文章を書きながら作文を通して覚えていきます。
（４）英会話だけでなくリーディングやライティングもしっかりカバーします。
（５）プレゼンテーションを行います。
（６）ディスカッションを行います。

以下に、各項目について評価コメントを記したいと思います。

（１）中身のある授業について

今回はサイエンス（地球および宇宙）として授業を進め、通常の担任であるCraig先生に科学関連ピックを扱った授業を担当してもらいました。また、中学生レベルの授業では環境圏や天体の分野について、英語のテスト単元から抜粋した問題演習も行いました。具体的には、一つの現象について記述式で説明したり、先生からの口頭での質問に一問一答あるいはやや長い説明と共に理解した内容をその場で表現するための訓練を行い、とても高度なレッスンになりました。準備段階やリハーサルを通じて知識を深める機会を持ったことは、この分野での視野を広げるような経験になったのではないでしょうか。

（２）自己表現力を鍛える

授業ごとに先生が用意してきた教材（主にインターネットからのテキスト）を使用し、生徒とディスカッションを行い、生徒自身の意見を発表し交換し合いました。

（３）英文法やライティング授業を行なう

サイエンス授業の問題演習として行いました。また今回は、プレゼンの原稿作りの段階で、できた原稿をレビューしてもらい、同時にプレゼンの指導を行いました。

（４）リーディングやライティング授業を行なう

上記（２）の教材を使用し、リーディングの授業を行いました。新出単語、難易度の高い単語に関してはその都度復習をしながら進めました。同時に読解力を付ける為の問題にもチャレンジしました。先生から適時、クリエイティブライティングの一環として制限時間内に、規定単語数以上の文を書くという課題が出されました。

（５）プレゼンテーションを行う

前学期と同じく、中間・期末と２度のプレゼンテーションを行いました。最終回は、共通テーマであるサイエンス（地球および宇宙）に関連するトピックを各自が発表しました。準備段階も含め、各自トピックに関しての知識と関心を深められたことと思います。

（６）ディスカッションを行う

最終プレゼン後、全員で共通テーマ「人間が宇宙コロニーまたは他の惑星で生活をするにはどんな設備が必要となるか？」を議論しました。

宇宙ホテル、宇宙コロニーやその他宇宙設備について学院長が予め説明を行って議論を開始しました。一見夢の話ですが、ポイントは生活に必要な水をどの様に確保できるかです。これは地球上でも近い将来世界的問題となるところです。

■共通テーマ：サイエンス（地球および宇宙）

＊Ｙさん（中学生）　－生物生存の調査における地球、火星と金星との比較
～火星と金星の環境、両星での生物生存の可能性を検討した上で、これらの比較を述べた。

＊Ｊ君（高校生）　－地球の磁場とその影響
～地球特有のものとして地磁気があり、これが人類や生物に外宇宙からの放射線の被害を防ぐ等その影響を述べた。

４．講座内容のまとめ

通常の学校に比べ、授業時間の絶対数が少ないにもかかわらずこのプレゼンテーションの時間を多くしているのは、セルフスタディを重視するためです。知識を詰め込むよりも、自分で考え、問題（テーマ）を解決する能力を育成するためです。学校で得られる知識は時間に比例するとすれば限られてしまいます。むしろ自分で考え、解決できる能力を育成する方が如何に世に出て役に立つかは私自身の経験からも言えることです。また、自分で考えることで英語を使う時間も長くなり、英語力を向上させるのにも寄与することとなります。一石二鳥ということです。

プレゼンテーションでは何をテーマに選ぶかが重要ですが、背伸びすればプレゼンテーションは難しくなり、易し過ぎれば、プレゼンテーションは上手くできても、本人はもの足りない思いをすることとなります。この意味で、学期で２回プレゼンテーションがあれば、自身で選んだものとで半々に実施することがベストと考えます。

今回は生徒それぞれに興味あるテーマが選ばれていました。テーマを見れば大学生並と言えそうです。宇宙開発の研究は衛星を通して年々データが集まってきつつありますが、まだまだ夢の世界と言えます。しかし技術者は真面目に計画し、研究を進めているのです。今回学院長が紹介した宇宙ホテルや宇宙コロニー等は、既に数年前に研究されていたものです。生徒が大人になる頃には、大戦争がなければ実現しているでしょう。予算的にも実現可能と予想されています。

また、最後にプレゼンテーションのテーマについて、皆で質疑応答やディスカッションを行いました。生徒から活発に質問が出され、プレゼンした生徒はそれに良く答えていました。本テーマのサイエンス（地球および宇宙）は奥が深く、幅広くて大きく、やり方としてもかなり難しいテーマでしたが、生徒はそれなりにそしゃくし、興味を持ち、良く調べて発表していました。それに加え、活発に質疑を行っていたことは望ましいことと思っています。プレゼンの結果はすばらしく、大学生顔負けです。あまり得意でなかった人も今後これをキッカケに興味を抱かれることを期待しています。また、今日、インターネット等から容易に資料を見つけ、調べられることと思いますが、多くは大人向けで、中学生に適当な、読みやすい資料が少ないため調査に時間を要したと思います。しかしながら全体としてよくまとまっていました。また、受験や学内試験と重なり時間があまり取れなかったようですが、プレゼンに慣れ堂々とやってこられたのはさすがです。大いに自信を付けたことと思います。

なお、今回も最終プレゼンは講師陣とスタッフによる評価を行い、報告書の巻末に結果を添付しています。この評価を行う理由は、プレゼンが、自分の理解だけでなく聞き手の理解を意識したものであること、即ち、聞き手がどの様に理解し、評価するかが重要だからです。ただし、父兄には「あまり点数にこだわらず、今後の進歩を見て評価することが大事です。」と申し上げています。

以上の通り、主な項目を挙げただけでも、充実した内容をカバーしていると自負しており、また、このような難しい内容ながら、生徒が楽しんで授業を受けられることが重要と考えております。幸いにも優秀な生徒に参加頂き、彼らの表情からもおわかりのように、十分楽しく熱心に進めさせていただきました。

ABCD INSTITUTE
Academy of Business Communication & Debate

PRESENTATION EVALUATION SHEET

Presenter: _____Y_____ Date:__12/09/06____

Judge: ___Neil Mochan_____

Language (20 points) :	Pronunciation	10
	Grammar	10
Content (20 points) :	Clarity	10
	Thoroughness of Research	10
Presentation (50 points) :	Loud and Clear Voice	10
	Eye Contact	10
	Body Language	10
	Persuasiveness	10
	Originality	10
Answers (10 points) :	Clear Answers to Questions	10
Total:		100

Presentation Time	6 10

Comments from Judge:
Spoke very well but paused too often. Did very good research and used a lot of good content, but perhaps needed a more focused point to it. Used her eyes well when she wasn't looking at her paper. Could improve by memorizing her talk better. Body language will improve with confidence.

このプログラム紹介は、次号につづきます。

ABCD 学院
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-12
TEL:03-5365-1341　FAX:03-5365-1340
http://www.abcde.co.jp/

２回目の、ABCD 学院のユニークな中学生・高校生クラスの帰国子女プログラムの紹介です。

このプログラムは、具体的に「考える力の育成」と「英語力の強化」を目的としています。特に、「考える力の育成」のためには、クリティカル・シンキングのトレーニングと、プレゼンテーションを準備していくプロセスでの「考える」トレーニングが特徴です。どちらも、学園長の千葉さんのご経験が元になっています。